



岡村地区

『地域が主体の文化交流の形』

～全国初!? 人と文化がつなぐ、自治会と自治体～

平成5年から始まった、岡村地区と長野県池田町との友好親善交流は、当時岡村に在住していた牧利保画伯が描いた風景に感動した岡村の人々が、池田町へ働きかけたことがきっかけとなり、今日まで継続しています。

平成20年には、岡村小学校・池田小学校間、藤の木小学校(南区)・会染小学校(池田町)間で「なかよし学校」として地域の祭りを始めとする行事、生活や環境に触れ合うことを目的とした学校単位での交流も始まりました。

岡村の子ども達は農業や鱒のつかみ取りを体験し、池田町の子ども達は久良岐能舞台や三殿台遺跡等、地元の歴史を見学して、「池田町の山と緑」と「岡村地区の海と都市」を、相互に知ることで交流を深めています。



池田町の人達に、海の楽しいところ、横浜のいいところを、知ってもらえてよかったです。



長野に行って友達もできたし、なかなかできない体験ができ、いい思い出になりました。



来年は中学生になるので、池田町へ行けません。とても悲しいです。でも、これからもみんなが楽しく交流を続けていってほしいです。



上笹下地区

『地域の絆をつくるお囃子』

～上笹下地区のお正月は昔なつかしいお囃子で始まる～

栗木町内会館に近づくると聴こえてくる笛と太鼓。それは「くるぎ囃子会」の音色と踊り。栗木町内では昭和50年代までお囃子会がありましたが、後継者が育たず継続が困難となりました。平成3年頃に栗木町内の御輿愛好会が発足したことをきっかけに、お囃子会を復活させたいという機運が高まり、地域の寄付や協力を得て、実現することができました。

現在、小・中学生を含む、様々なメンバー13名が活動しています。お囃子の醍醐味は、楽譜がなく口伝で伝承されるため、ルーツが同じでも全く同じ演奏にはならないところだそうです。代表の鈴木さんは、「くるぎ囃子会」が地域のコミュニケーションの場、若い人たちへ文化を伝承する場となり、地域を離れた人にも、ふるさとの音として心に残ってくれればと願っています。



明治時代の太鼓やお面・獅子が今でも使われているよ！メンバーの金子さんは、お面を手づくりで作っているんだって！

洋光台地区



『洋光台音楽のつどい』

～文化で地域をつなげる心のふるさとづくり～

孫の活躍を見ることができて嬉しい。



経験の有無にかかわらず、音楽を楽しませてもらえる。



洋光台地区の地域のつながりのひとつに「洋光台音楽のつどい」があります。平成30年で第34回目となるこの音楽会は、洋光台にお住まいの中野野五さんが作詞された町歌「わが街洋光台」のお披露目会が始まりです。

その後、音楽を通じ街の連帯を図ることに賛同された方々や地元の小・中学校、地域の合唱団などの参加で、毎年盛大に開催しています。特に、この音楽会に深く関わっておられる三上さん、太田さん、森さんなどは、「この街の子どもたちが、洋光台をふるさととして心に残して欲しい」「大人になりまた戻って来て欲しい」と強い思いを話しています。



共通の趣味で喜びを分かち合えるって素晴らしい。

